

## 平成 23 年度第 2 回人材支援委員会 議事概要

- 日時 平成 23 年 12 月 20 日 (火) 14:00～16:00
- 場所 文部科学省・研究交流センター 2 階 第 1 会議室
- 出席者 委員長：二村 森  
(敬称略) 委員：井上勲、黒澤景、相澤高史、水町功子、田中裕一郎、白井憲一  
事務局：菊池正宏、伊藤祐二

### ■議事

#### 1 国の人材育成施策について

- ・委員長から科学技術イノベーション戦略本部について、又これからの若手研究者育成のあり方等について説明があった。

#### 2 産総研イノベーションスクールの取り組みについて

- ・ポストドク研究者の人材育成制度として創設した「イノベーションスクール」の実施内容について産総研招聘研究員、金沢氏より説明があり、スクール生の正規就業率が高いことが分かった。

#### 3 各タスクフォースの今年度の活動計画について

##### (1) グローバル人材育成支援 TF

- ・NIMSでは人材育成の視点からも、多くの外国人研究者を招聘し、一緒に研究する環境 (MANA, ICYS) を強化してきた。これにより研究所の国際化が進んできたが、同時に日本人研究者が海外で活躍できる環境づくりも強化している。これは第 4 期科学技術基本計画においても指摘されている「閉じこもり、引きこもりのない日本人研究者」に対応するものである。H23 科学技術白書によれば日本人研究者の長期派遣者数が 10 年前と比べ半分に落ちていることが指摘されている。NIMS 研究者の在外派遣を限られた予算の中で維持強化していく施策を紹介した。
- ・また、NIMS が海外機関に設置する初の本格的な連携研究センターである「NIMS - 天津大学連携研究センター」の内容について説明があった。

##### (主な意見)

- ・引きこもりの原因は、施設が日本にあることや、既に海外経験があることにありと考えられる。特許や論文数がボーナスに影響することも原因の一つである。
- ・競争的資金を得ることが若手研究者の内向き姿勢に影響し、海外に行く機会を逃しているところもある。

##### (2) 女性研究者育成支援 TF

- ・女性研究者支援に向けた取り組みとして、シンポジウムや講演会の開催、メンタリングプログラムについて説明があり、男性研究職員でもメンター制度の整備に関心が高くなっていることが分かった。

##### (3) シニア人材支援 TF

- ・今年で 4 年目となる「つくば市 OB 人材活動支援事業」について説明があり、講座数や活動数は増加しているが、活動者数が少ない結果 (全体の 32%) となっている。

##### (主な意見)

- ・未活動者については、団体向けだと無理なので、個人向けを検討してはどうか。個人向けなら受講したいという方がいると思われる、との指摘があった。

- 4 人材育成ロードマップについて
  - ・委員長から、昨年度作成したロードマップについて、成果目標等で修正がある場合は見直していくとの方針が示され、了承された。
  
- 5 人材ネットワークの構築について
  - ・委員長から、筑協をハブとしてお金を掛けずに外国人向けの人材ネットワークづくりが出来ないかということで、素案が示された。
  - ・次回委員会において内容を検討する予定。
  
- 6 イベント等の紹介
  - ・今後も引き続き、委員会においてイベント等の紹介を行うこととなった。

以上